

主が結ばれた再契約

(出エジプト34・10～14)

一、契約について

きょうの説教題は「主が結ばれた再契約」としました。このことばをよく見られてください。「主と結んだ再契約」ではなく、「主が結ばれた再契約」です。「主と結んだ再契約」としてしまつたら、聖書が語っている契約を捉えていないこととなります。契約とは、約束よりも重たいものです。一般に契約という場合、当事者がだれであるのか、条件が何であるのか、約束の内容が何であるのかが明記され、違反すると罰則が適用されます。私共が神と契約を結ぶという場合、常に一方的なものです。神と私たちは対等ではありませんから。神が契約を示され、人間がそれを受けて結ぶというものです。

それにしましても、私たちが信じる神は善いお方ですから、感謝します。主の御名を崇めます。アーメン。

二、契約の推移

聖書をひもといてまいりますと、最初に現れるのは、神である主がアダムに示された契約です。アダムは契約を守らなかったため、楽園を追い出されてしまいました。次は、ノアに示された契約です(創9・11)。神は契約のしるしとして、雲の中に虹を立てられました(創9・13)。次は、アブラハムとの間に立てられた契約です(創15・18)。契約のしるしとして主は、男子は生まれて八日目には割礼を受けなければならぬと語られました(創世記17・12)。そして、出エジプト記24章に記されている「シナイ契約」と呼ばれる契約です。この契約が交わされ、イスラエルには戒めと掟と法が与えられました。シナイ契約は、イスラエルの民の違反により、一旦無効になってしまいました。指導者モーセの執り成しもあり、再び結ばれました。それが、出エジプト記34章以降に書かれていることです。その後、主がダビデと交わされた契約があります。ダビデ契約と言われるものです(11サム7・12～13)。ダビデは大きな罪を犯しましたが、とことん悔い改めたため、ダビデ契約は続くことになりました。そして、主イエス・キリストによる新契約へと続きます(1コリ11・25)。そういうわけで旧約、すなわち旧契約は複数あるのに対して新契約、すなわち新約は一つだけです。それらの旧契約と新契約はバラバラにあるのではなく、アダム契約―ノア契約―アブラハム契約―シナイ契約―ダビデ契約―新契約と、つながっています。神は善いお方であり、真実なお方ですから、私共が違反しない限り、契約は有効です。否、違反をしても悔い改めるなら、すな

わち方向転換をするなら赦してください(創9・13)。次は、アブラハムとの間に立てられた契約です(創15・18)。契約のしるしとして主は、男子は生まれて八日目には割礼を受けなければならぬと語られました(創世記17・12)。そして、出エジプト記24章に記されている「シナイ契約」と呼ばれる契約です。この契約が交わされ、イスラエルには戒めと掟と法が与えられました。シナイ契約は、イスラエルの民の違反により、一旦無効になってしまいました。指導者モーセの執り成しもあり、再び結ばれました。それが、出エジプト記34章以降に書かれていることです。その後、主がダビデと交わされた契約があります。ダビデ契約と言われるものです(11サム7・12～13)。ダビデは大きな罪を犯しましたが、とことん悔い改めたため、ダビデ契約は続くことになりました。そして、主イエス・キリストによる新契約へと続きます(1コリ11・25)。そういうわけで旧約、すなわち旧契約は複数あるのに対して新契約、すなわち新約は一つだけです。それらの旧契約と新契約はバラバラにあるのではなく、アダム契約―ノア契約―アブラハム契約―シナイ契約―ダビデ契約―新契約と、つながっています。神は善いお方であり、真実なお方ですから、私共が違反しない限り、契約は有効です。否、違反をしても悔い改めるなら、すな

わち方向転換をするなら赦してください(創9・13)。次は、アブラハムとの間に立てられた契約です(創15・18)。契約のしるしとして主は、男子は生まれて八日目には割礼を受けなければならぬと語られました(創世記17・12)。そして、出エジプト記24章に記されている「シナイ契約」と呼ばれる契約です。この契約が交わされ、イスラエルには戒めと掟と法が与えられました。シナイ契約は、イスラエルの民の違反により、一旦無効になってしまいました。指導者モーセの執り成しもあり、再び結ばれました。それが、出エジプト記34章以降に書かれていることです。その後、主がダビデと交わされた契約があります。ダビデ契約と言われるものです(11サム7・12～13)。ダビデは大きな罪を犯しましたが、とことん悔い改めたため、ダビデ契約は続くことになりました。そして、主イエス・キリストによる新契約へと続きます(1コリ11・25)。そういうわけで旧約、すなわち旧契約は複数あるのに対して新契約、すなわち新約は一つだけです。それらの旧契約と新契約はバラバラにあるのではなく、アダム契約―ノア契約―アブラハム契約―シナイ契約―ダビデ契約―新契約と、つながっています。神は善いお方であり、真実なお方ですから、私共が違反しない限り、契約は有効です。否、違反をしても悔い改めるなら、すな

三、「わたしは契約を結ぼう」

では、きょうの聖句を見てまいります。10節です。〈主は言われた。「今ここで、わたしは契約を結ぼう。」とあります。なぜ、神がそのように語られたのでしょうか。24章に、モーセと、祭司として聖別されるべくアロン、ナダブ、アビフ、それにイスラエルの七十人の長老がシナイ山に登り、契約が結ばれたことが書かれています。なのに34章で「今ここで、わたしは契約を結ぼう」と、主が語られたことばが記されているのは、なぜなのでしょう。それは、32章に記されている事件があったからです。エジプトの地で四百年滞在していたイスラエルの民は、すっかりエジプトの影響を受けてしまったようです。「あなたは自分のために偶像を造ってはならない。上の天にあるものでも、下の地にあるものでも、地の下の水の中にあるものでも、いかなる形をも造ってはならない」と主が語られてもピンと来ませんでした。まことの神は、人間が考え出すあらゆるイメージによって捉えることのできないお方です。ですが、そのことが分らない。それは決して他人事ではありません。近代・現代という時代に生きている私共は、神は人

間が造り出した想像の産物であるという価値観の中で生きていますから、私共が「神さま」と語ろうものなら、多くの方が「その話は今はやめてほしい」と思ってしまう。エジプトから出てきたイスラエルの民、及び彼らを慕って一緒に出て来た多くの異国人は、形に表せない神を信じるのができませんでした。そこで彼らはまぢがいを犯した次第です。32章に記されている金の子牛事件がそうです。こうして、イスラエルの民が違反をしたので、契約は無効になってしまいました。ところが今一度34章10節をご覧ください。

〈主は言われた。「今ここで、わたしは契約を結ぼう。」とあります。もっとも、そこに至るまでには、神と民との間の仲介者となったモーセが、身を挺して執り成しの祈りをしたという背景があります。こうして主は、一方的にイスラエルと再契約を交わされました。神は、私たちが不信仰になっても悔い改めるなら、すなわち方向転換をするなら赦してくださいとお方です。私共は、主に従いたいと願っていても失敗をしてしまうものです。ですが、聖句にあります。〈ローマ8・34だれが、私たちを罪ありとするのですか。死んでくださった方、いや、よみがえられた方であるキリスト・イエスが、神の右の座に着き、しかも私たちのために、とりなしてくださるのです。〉と。心強いです。